

12 明治9年4月2日 菊池長閑

第四号四月二日認

第八号二月二日附昨一日日数五十九日達致披見候無事之由一段之義ニ大悦候当方同然ニ候写真十二枚達候趣朋友連之評判早速披露大
笑致候お磯おくのお波も悦居候おすみハ鼻なき者之如クニ而大
不出来彬郎ハ十二枚中之第二之出来と存候処悪トハ不審置申越
之趣ハ仙台エ可申越候年始状之事懸念ニ候一月四日附ニ而二月
十五日正ニ達候無号ニ候得共第七号ニ当リ候間此度到着之書翰
ハ八号ニ而間違不申候郵便切手四十一枚不思寄外国之小兒より
到来実ニ珍らしく大慶致候逐日暖氣も催候間小画帳之如き物拵
ひ張着葉ニ可備候日本切手類此地ニ於てハ迎も各種得る事難ク
去とて外国之人エ此小物云訳ニも不成ニ付各種集次第送方共一
條治士エ依頼置候大都と雖も無造作ニハ集り間敷其訳ハ一時物
にて皆打捨候者故一時ニ纏まり申間敷延引之処ハ申訳置可申此
地にても及丈ハと存方々エ頼入漸之次第にて聊集メ外ニ小兒エ
之答礼ニ可成物色々考候得共手輕之品は無之織物之事ハ新聞ニ
も相見得候間新庄御邸一心エ無心候処色々切端送呉候其中ニ三
井寺と申御能御衣装ニ御注文ニ相成真之唐織と申物之由如何に
も出来合物とも不見得織方も工ミ見得対ニ切れも大振故右等も
一処封込年始状之返事旁第三号ヲ以去月十一日郵便エ差出候処

未だ達不申趣河上より申来此許吟味候処差立候ニ相違無之趣候得は途中之行違ニ可有之哉少々後れ候ても無事ニ届候様祈候紛失候而も書面ニは聊懸氣事無之面倒しく集た切手と織物ハ残念ニ候小兒ニ宜挨拶頼入候」朝鮮事件も御安心ニ至候趣布告候得共趣意柄新聞にも不見得も貿易場を三ヶ処ニ御開立と申説有之由宅命も日新艦ニ而出張之筈未帰着之便は不承候得共必無事ニ而戻候事と察居候從五位様御廟拜御願立御往復之外六十日間御暇ニ而昨一日東京御発車来月十日ニ御着と申事三戸三光尻エも被為入候趣ニ候老公ハ何之訳か御下向不被遊候残念ニ候」英公子一月三十日東京御着二月十五日又々御出帆之趣御屋敷より候東京ハ尔今ニ誰も為知候者無之今程ハ御目通もいたし東京之様子も伺候半静山殿北監物殿事滞京中公子御帰朝ニ而伺候処貴様遠方ニ居ながら御世話申上候申先達此許ニ而面会之節承候一頃公子之御評判以ノ外なる様相聞得乍不及御案事申上居候臣側ニ居ると違ひも思ふ様届間敷候得共毫傑組等之評判ニ不被為至様及大尽力可致候」藤田も仙台ニ而二月之大試験にて一等第一番ニ成舎長と相成候趣七月ハ帰県ニ可成と申来候併新聞ニハ名面識候ハ不審ニ候」当表去月三十一日迄ハ折々雪降風も荒々敷処昨今漸暖催岩山辺野火焼など有之漸春めき候寒暖計五十度ニ至候内丸松之馬場が小榎庭屋敷跡迄御安害之土手を崩平地とし公園地ニ成此節追々植樹ニ相成居候御新丸跡エハ中学校并病院設立之趣ニ候聖壽寺当時苾蕪之地と成是ハ住持不取締にて本堂を始御成座敷庫裡が五重之塔まで悉皆売私と成る是エ招魂社を引移四季之花を植込む手続之由是ハ県令之心付ニ而御手伝申上候よしいまた取懸りニハ不成追々取計ニ成候半」

昨亥之石代金三月三十一日限り皆納之布告之処手前之分ハ廿八日迄ニ皆納致候大ニ金詰と成昨年十二月より猶勝れりと之事未だ十五万円計三月ノ処ニ而四十幾方之内二十幾万円上納残り残り候由大形身体限りハ随分可出と之噂ニ候以上

武夫殿

長閑

猶以藤田たけ未之手札相違候近日差立可申候

(封筒裏)

「亞米利加国ポストン府

ポードウイン、ストリート

二十二番地

菊池 武 夫 殿

「要用書報平安」

(封筒裏)

「大日本陸中国岩手県下

第一大区五小区外加賀野

八十六番地

菊池 長 閑

四月五日発 第四号」